

世の中で疑いが一番悪い。神に任せて、一心に信心をせよ。任せたうえは、神がよいようにしてやる。疑いを放すという心ひとつで、おかげをいただくのである。

……「天地は語る」第八十二条……

解説

ここで教祖様が、一番悪いと言われている「疑い」とは、神様に対する疑いのことです。神信心とは書いて字の通り、神を信じることであります。ゆえに疑いが出てきて信じきれないと当然、お蔭は頂けないことになります。高德な方々や篤信の方々は別として、私達は、信心しております、どうしても、どうしても一般通念から脱することができず、神様に任せきれないところがあります。しかし教祖様は「疑いを離して、神様に任せて一心になれば、必ず大神蔭を蒙ることができる」と断言されていますので、そのような心持ちになれるよう信心の稽古に勤しみ「疑いを離れて広き真の大道を開き見よ。わが身は神徳の中に生かされてあり」との御教えが、早く心に響くような信心にならせて頂きたいものであります。